

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	トライデント外国語・エアライン・ホテル専門学校
設置者名	学校法人 河合塾学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
文化・教養課程	英米語学科	夜・通信	10 単位 (300 単位時間)	7 単位 (210 単位時間)	
	国際エアライン学科	夜・通信	17 単位 (510 単位時間)	7 単位 (210 単位時間)	
	グローバル学科 英語系専攻	夜・通信	10 単位 (300 単位時間)	10 単位 (300 単位時間)	
	グローバル学科 エアライン フライトアテンダント専攻・グランドスタッフ専攻	夜・通信	17 単位 (510 単位時間)	10 単位 (300 単位時間)	
	グローバル学科 ホテル系専攻	夜・通信	22 単位 (660 単位時間)	10 単位 (300 単位時間)	
商業実務課程	国際ホテル学科	夜・通信	22 単位 (660 単位時間)	7 単位 (210 単位時間)	
(備考) グローバル学科英語系専攻とは、総合英語専攻/英語+アジア言語専攻を指す。グローバル学科ホテル系専攻とは、国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 <a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/26/a9cc04e2039a82229e9f373dddbbe493460f73e7.pdf">https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/26/a9cc04e2039a82229e9f373dddbbe493460f73e7.pdf</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	トライデント外国語・エアライン・ホテル専門学校
設置者名	学校法人 河合塾学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 <a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/25/58f0464d30c726d12775a5ec068065abfb6734a1.pdf">https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/25/58f0464d30c726d12775a5ec068065abfb6734a1.pdf</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2025年6月26日～2027年度 定時評議員会 終結時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	弁護士	2025年6月26日～2027年度 定時評議員会 終結時	組織運営体制への チェック機能
非常勤	公認会計士	2025年6月26日～2027年度 定時評議員会 終結時	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	トライデント外国語・エアライン・ホテル専門学校
設置者名	学校法人 河合塾学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画書(シラバス)の作成</li> </ul> <p>トライデント全校共通の教育理念のもと策定された本校の教育目標、教育方針に基づき、全学科、学科長・常勤講師を中心に、業界ニーズを反映したカリキュラムの立案・編成に取り組んでいる。まずカリキュラム編成の大綱と具体的な方針を決定したあと、各授業担当講師と協議し成案を得たうえで、授業計画に落とし具体的授業展開に至るプロセスとしている。</p> <p>講義計画書(シラバス)は、全学科とも、年度・学期ごとに全履修教科について作成している。シラバスには、科目名・授業名・担当教員・単位数・科目のねらい・教科書・教材・授業概要・到達目標(専門知識スキル・社会人基礎力)・評価項目(評価の方法)・コマごとのテーマ・内容(詳細)・持参物等・授業外学習・宿題・提出課題等を記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画書(シラバス)の公表に係る取組</li> </ul> <p>シラバスは、教職員用Webポータルサイトで閲覧できるようにしている。学生には、学生ポータルサイトから確認できるようになっている。またホームページ内の学校紹介・学校公開資料内にて閲覧可能としている。</p> <p>シラバスの利用方法は、各学科長・教務担当が、授業構想の確認と授業の進捗状況に使用している。また、学生については、学習計画や各教科の意味・カリキュラム上の位置づけなどへの理解、持参物の確認に使用している。</p> <p>シラバスの公開時期は、各学期初めのオリエンテーション時より閲覧可能としている。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>学生ポータルサイト、本校ホームページ</p> <p><a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/">https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A (優)、B (良)、C (可)、F (不可)」の4段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。</p> <p>各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。</p> <p>以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。</p> <p>(1) 必要出席率(80%)を満たしていること。</p> <p>(2) 授業参加態度が良好であること。</p> <p>(3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A (優)、B (良)、C (可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。</p> <p>(4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。</p> <p>成績結果は、学生へ年2回通知している。評価については相対評価として、評価配分に関してはあらかじめ提示し、依頼している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA (Grade Point Average) の計算方法  計算式：(成績評価数値×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA  成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。  (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0  GPAの指標を設定し、本校ホームページ上の学校紹介・学校公開資料内に公表している。成績の分布資料も作成し把握している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧及び、ホームページにて公表  <a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/25/7a9d664c09644ee9cfcfe42d85ad0155936c6e85.pdf">https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/25/7a9d664c09644ee9cfcfe42d85ad0155936c6e85.pdf</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>進級・卒業の条件  以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。</p> <p>(1)各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。  1年次 37単位、2年次・卒業次 31単位</p> <p>(2)進級・卒業認定会議で承認されること。</p> <p>(3)在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>学生便覧及び、ホームページにて公表  <a href="https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/25/26144f3722c93432e48778efb8a66e04ada27373.pdf">https://gaikokugo.trident.ac.jp/datas/files/2026/06/25/26144f3722c93432e48778efb8a66e04ada27373.pdf</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	トライデント外国語・エアライン・ホテル専門学校
設置者名	学校法人 河合塾学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	2025年度学校法人河合塾学園事業報告書 6d1176f5e238556c9b194989d0024f071c46ce05.pdf
収支計算書又は損益計算書	2025年度学校法人河合塾学園事業報告書 6d1176f5e238556c9b194989d0024f071c46ce05.pdf
財産目録	2025年度学校法人河合塾学園事業報告書 6d1176f5e238556c9b194989d0024f071c46ce05.pdf
事業報告書	2025年度学校法人河合塾学園事業報告書 6d1176f5e238556c9b194989d0024f071c46ce05.pdf
監事による監査報告（書）	2025年度学校法人河合塾学園事業報告書 6d1176f5e238556c9b194989d0024f071c46ce05.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	英米語学科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼夜	68単位 (2040単位時間)	17単位 (510単位時間)	41単位 (1230単位時間)	10単位 (300単位時間)		
	昼間						
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200人		95人	3人	10人	8人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。</p> <p>「多読・音読」という手法で実用英語を効果的に習得しうる取り組みを実践している。英語を多読・音読することにより英語表現方法や英語で考える力を徹底的に強化し、読んだ本のあらすじや感想、気に入った英語表現をレポートにまとめて提出することを義務付けている。さらに授業以外にも多読・音読が身につくように情報センターにおいて英語蔵書を9ランクの難易度に分けてわかりやすく表示し、学生が段階的に英書を読み進むことができる学習環境を整えている。従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。</p>

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A (優)、B (良)、C (可)、F (不可)」の4段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。</p> <p>各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。</p> <p>以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。</p> <p>(1) 必要出席率(80%)を満たしていること。</p> <p>(2) 授業参加態度が良好であること。</p> <p>(3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A (優)、B (良)、C (可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。</p> <p>(4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。</p> <p>GPA (Grade Point Average) の計算方法          計算式：(成績評価数値×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA          成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。          (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。</p> <p>(1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。          1年次 37単位、卒業次 31単位</p> <p>(2) 進級・卒業認定会議で承認されること。</p> <p>(3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を点数していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。</p> <p>さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
45人 (100%)	1人 (2%)	39人 (87%)	5人 (11%)
(主な就職、業界等) セイハネットワーク(株)、東海旅客鉄道(株)、ALSOK千葉(株)、 NCA Japan(株)、ヒルトン名古屋			

(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など
(主な学修成果(資格・検定等)) TOEIC、実用英語検定、観光英語検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91人	14人	15.3%
(中途退学の主な理由) 学業不振、経済的理由、進路変更、精神疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年6回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	国際エアライン学科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	68単位 (2040単位時間)	16単位 (480単位時間)	36単位 (1080単位時間)	16単位 (480単位時間)		
	昼夜						
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		85人	22人	10人	8人	18人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。「ホスピタリティマインド」をコア概念として授業を展開している。英語力と必須の知識・技術の修得にとどまらず、エアライン業界での必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。
成績評価の基準・方法
(概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)」の4段階としている。科目によっては、「N(認定)」と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目

<p>は、単位評価できる場合でも「N」（認定）となる。各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。</p> <p>以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。</p> <p>(1) 必要出席率（80%）を満たしていること。</p> <p>(2) 授業参加態度が良好であること。</p> <p>(3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A（優）、B（良）、C（可）」であること。科目によっては、「N」（認定）であること。</p> <p>(4) 科目名「〇〇（検定）対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。</p> <p>GPA（Grade Point Average）の計算方法          計算式：（成績評価数値×科目単位数）の合計÷総単位数＝GPA          成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。          （「認」は含まない） A=11，B=7，C=4，F=0</p>
<p><b>卒業・進級の認定基準</b></p> <p>（概要）以下（1）～（3）の全ての条件を満たしていること。</p> <p>(1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。          1年次 37単位、卒業次 31単位</p> <p>(2) 進級・卒業認定会議で承認されること。</p> <p>(3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。</p>
<p><b>学修支援等</b></p> <p>（概要）常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。</p> <p>さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34人 (100%)	2人 (6%)	29人 (85%)	3人 (9%)
<p>（主な就職、業界等）            ANA 中部空港(株)、ANA 千歳空港(株)、国際航空旅客サービス(株)、スカイマーク(株)、スイスポーティング(株)</p>			
<p>（就職指導内容）            就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））            TOEIC、サービス接客技能検定、サービス介助士、救急法救急員、など</p>			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77 人	4 人	5.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年 6 回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	グローバル学科 英語系専攻	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	99 単位 (2970 単位時間)	20 単位 (600 単位 時間)	44 単位 (1320 単 位時間)	35 単位 (1050 単 位時間)		
	学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人の内数		14 人	0 人	10 人	8 人	18 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。 「多読・音読」という手法で実用英語を効果的に習得しうる取り組みを実践している。英語を多読・音読することにより英語表現方法や英語で考える力を徹底的に強化し、読んだ本のあらすじや感想、気に入った英語表現をレポートにまとめて提出することを義務付けている。さらに授業以外にも多読・音読が身につくように情報センターにおいて英語蔵書を 9 ランクの難易度に分けてわかりやすく表示し、学生が段階的に英書を読み進むことができる学習環境を整えている。従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。 さらに 2 年次の 4 月から 9 カ月間、授業の一環として海外提携大学に留学し、学んできたことを実践し異文化を肌で感じることによって国際感覚の醸成につなげる。 生徒定員数はグローバル学科全体で各学年 20 名、総定員数は 60 名。英語系専攻とは、総合英語専攻/英語+アジア言語専攻を指す。
成績評価の基準・方法

<p>(概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A (優)、B (良)、C (可)、F (不可)」の4段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。</p> <p>以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。</p> <p>(1) 必要出席率(80%)を満たしていること。</p> <p>(2) 授業参加態度が良好であること。</p> <p>(3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A (優)、B (良)、C (可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。</p> <p>(4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。</p> <p>GPA (Grade Point Average) の計算方法          計算式：(成績評価数値×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA          成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。          (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。</p> <p>(1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。          1年次 37単位、2年次・卒業次 31単位</p> <p>(2) 進級・卒業認定会議で承認されること。</p> <p>(3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。</p> <p>さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	1人 (11%)	8人 (89%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) (株)ジェイアール東海ホテルズ、LEGOLAND Japan(合)、 スイスポーツジャパン(株)、(株)NAA リテイリング			

(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など（予定）
(主な学修成果（資格・検定等）） TOEIC、実用英語検定、観光英語検定など
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	3人	14.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年6回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	グローバル学科 エアライン フライトア テンダント専攻・エアラ イン グランドスタッフ 専攻	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	99単位 (2970単位時間)	19単位 (570単位 時間)	39単位 (1170単 位時間)	41単位 (1230単 位時間)		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人の内数		20人	0人	10人	8人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要) 実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。</p> <p>「ホスピタリティマインド」をコア概念として授業を展開している。英語力と必須の知識・技術の修得にとどまらず、エアライン業界での必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。</p> <p>従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。</p> <p>さらに2年次の4月から9カ月間、授業の一環として海外提携大学に留学し、学んできたことを実践し異文化を肌で感じることによって国際感覚の醸成につなげる。</p> <p>生徒定員数はグローバル学科全体で各学年20名、総定員数は60名。</p>

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A (優)、B (良)、C (可)、F (不可)」の4段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。</p> <p>以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。</p> <p>(1) 必要出席率(80%)を満たしていること。</p> <p>(2) 授業参加態度が良好であること。</p> <p>(3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A (優)、B (良)、C (可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。</p> <p>(4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。</p> <p>GPA (Grade Point Average) の計算方法          計算式：(成績評価数値×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA          成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。          (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。</p> <p>(1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。          1年次 37単位、2年次・卒業次 31単位</p> <p>(2) 進級・卒業認定会議で承認されること。</p> <p>(3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。</p> <p>さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
㈱韓進インターナショナルジャパン、羽田空港国際旅客サービス㈱、㈱Kスカイ、スカイマーク㈱			

(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など
(主な学修成果(資格・検定等)) TOEIC、サービス接遇技能検定、サービス介助士など
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	2人	13.3%
(中途退学の主な理由) 経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年6回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化教養専門課程	グローバル学科 ホテル系専攻	○	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	99単位 (2970単位時間)	26単位 (780単位時間)	21単位 (630単位時間)	52単位 (1560単位時間)		
学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人の内数	7人	0人	10人	8人	18人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 対人サービス能力およびホスピタリティマインドに優れた人材の育成を目標に掲げ、専門技術の修得のみならず、業界で必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。 「お客様を感動させるサービス」をコア概念として「ホスピタリティマインド」の授業を設置。必須の知識・技術の修得にとどまらず、ホテル実務に対応した「感動力」を持ったプロフェッショナルの育成に努めている。専門的な知識やスキル、語学力はもちろん、一流の接客に不可欠なホスピタリティマインドを身につけながらホテル業務全般を理解し、自主的に考え、行動できる人材を育成できるように実習中心のカリキュラムを設計している。専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。 1年次に3カ月間のインターンシップを実施。 さらに2年次の4月から9カ月間、授業の一環として海外提携大学に留学し、学んできたことを実践し異文化を肌で感じることによって国際感覚の醸成につなげる。

<p>生徒定員数はグローバル学科全体で各学年 20 名、総定員数は 60 名。ホテル系専攻とは、国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A (優)、B (良)、C (可)、F (不可)」の 4 段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の 80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。</p> <p>以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。</p> <p>(1) 必要出席率 (80%) を満たしていること。</p> <p>(2) 授業参加態度が良好であること。</p> <p>(3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A (優)、B (良)、C (可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。</p> <p>(4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。</p> <p>GPA (Grade Point Average) の計算方法  計算式：(成績評価数値×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA  成績評価数値は「A・B・C・F」4 段階で、それぞれは以下の数値で計算される。  (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 以下 (1) ~ (3) の全ての条件を満たしていること。</p> <p>(1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。  1 年次 37 単位、2 年次・卒業次 31 単位</p> <p>(2) 進級・卒業認定会議で承認されること。</p> <p>(3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各 3 回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習 PDCA を実行している。</p> <p>さらに毎週 1 回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） ソラーレホテルズアンドリゾーツ(株)、(株)NEW ART			
（就職指導内容） 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など			
（主な学修成果（資格・検定等）） サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	2人	20%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による年6回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	国際ホテル学科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	68単位 (2040単位時間)	23単位 (690単位時間)	18単位 (540単位時間)	27単位 (810単位時間)		
	夜間						
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		101人	25人	10人	8人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）対人サービス能力およびホスピタリティマインドに優れた人材の育成を目標に掲げ、専門技術の修得のみならず、業界で必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。 「お客様を感動させるサービス」をコア概念として「ホスピタリティマインド」の授業を設置。必須の知識・技術の修得にとどまらず、ホテル実務に対応した「感動力」を持ったプロフェッ

<p>ヨナルの育成に努めている。専門的な知識やスキル、語学力はもちろん、一流の接客に不可欠なホスピタリティマインドを身につけながらホテル業務全般を理解し、自主的に考え、行動できる人材を育成できるように実習中心のカリキュラムを設計している。専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。1年次に国内ホテル・海外ホテルでの3カ月間のインターンシップを実施。</p>
<p><b>成績評価の基準・方法</b></p> <p>(概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)」の4段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。</p> <p>以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。</p> <p>(1) 必要出席率(80%)を満たしていること。  (2) 授業参加態度が良好であること。  (3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A(優)、B(良)、C(可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。  (4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。</p> <p>GPA(Grade Point Average)の計算方法  計算式:(成績評価数値×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA  成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。  (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0</p>
<p><b>卒業・進級の認定基準</b></p> <p>(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。</p> <p>(1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。  1年次 37単位、卒業次 31単位</p> <p>(2) 進級・卒業認定会議で承認されること。  (3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を点数していること。</p>
<p><b>学修支援等</b></p> <p>(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。</p> <p>さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
44人 (100%)	1人 (2%)	39人 (89%)	4人 (9%)
（主な就職、業界等） ハレクラニ沖縄、コンラッド名古屋、コートヤード・バイ・マリオット名古屋、シャングリラ京都、(株)森ビルホスピタリティコーポレーション			
（就職指導内容） 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など			
（主な学修成果（資格・検定等））サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
102人	6人	5.9%
（中途退学の主な理由） 学業不振、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による年6回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

## ②学校単位の情報

### a) 「学生納付金」等

#### 2024年以前入学者

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
英米語	200,000円	830,000円	280,000円	
国際エアライン	200,000円	780,000円	280,000円	
グローバル (英語系)	200,000円	830,000円	280,000円	
グローバル (エアライン系)	200,000円	730,000円	280,000円	
グローバル (ホテル系)	200,000円	730,000円	280,000円	
国際ホテル	200,000円	730,000円	280,000円	
修学支援（任意記載事項） 特待生選抜制度、トライデント奨学生制度、トライデント同窓会奨学生制度、トライデント海外留学奨学生（スカラシップ留学）制度、ホテル委託奨学生制度、河合塾グループ在籍者対象減免制度、家族入学者減免制度				

2025 年以降入学者

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
英米語	200,000 円	880,000 円	280,000 円	
国際エアライン	200,000 円	780,000 円	280,000 円	
グローバル (英語系)	200,000 円	880,000 円	280,000 円	
グローバル (エアライン系)	200,000 円	780,000 円	280,000 円	
グローバル (ホテル系)	200,000 円	780,000 円	280,000 円	
国際ホテル	200,000 円	780,000 円	280,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
特待生選抜制度、トライデント奨学生制度、トライデント同窓会奨学生制度、トライデント海外留学奨学生 (スカラシップ留学) 制度、ホテル委託奨学生制度、河合塾グループ在籍者対象減免制度、家族入学者減免制度				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 2025 年度自己点検・自己評価報告書は 7 月末に公表予定		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制) (学校関係者評価の基本方針)		
校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する学校関係者評価を実施する。年 1 回学校関係者評価委員会を実施し、情報共有、意見交換を行っている。評価の活用方法としては委員よりいただいた意見を基に校内で会議を行い具体的な改善施策を検討し実行することとしている。 評価委員会の構成：委員の定数 4 名以上、委員の選出区分 企業、卒業生、高校教諭、地域		
第三者評価の委員 (2026 年度学校関係者評価委員)		
所属	任期	種別
イッティージャパン株式会社	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業
愛知中小企業家同友会	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業
県立城北つばさ高等学校	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	高等学校教員
愛知県商店街振興組合連合会 名古屋市商店街振興組合連合会 瑞穂通商店街振興組合	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	地域
ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	卒業生
株式会社ドリームスカイ名古屋	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日	企業
第三者評価結果の公表方法 (学校関係者評価結果の公表方法)		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)  
「2025年度学校関係者評価報告書」に関しては8月に学校関係者評価委員会を開催のため9月末に公表予定

(備考)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)  
<https://gaikokugo.trident.ac.jp/about/sight/>